

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 国語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年5月実施の学力調査では、「話すこと・聞くこと」領域において、話し手に対して質問を考える問題で、正答は4人中1人だった。話し手の話に関心を持ち、内容に沿った質問をすることに課題がある。</li> <li>漢字を書く問題で、4人中2人が、3問中1問のみ正答だった。漢字の書き取りに課題がある。</li> <li>平仮名で書かれた文章の中から片仮名で書く語を答える問題では、正答は4人中2人だった。正答は「ドア」だが、誤答の2人は「新幹線」を片仮名で書くと答えていた。片仮名で書く語の種類について理解が曖昧であること、また、読書経験や語彙の少なさも課題であると考えられる。</li> <li>ひとまとまりの文章を箇条書きに直す問題で、正答は4人中2人だった。正答の2人についても、調査中に質問があった。問題文の意図を理解したり、順序立てて考えたりすることに課題がある。</li> <li>4人中2人は最後まで問題を解くことができなかったため、「書くこと」領域について学力調査の結果から分析することはできないが、普段の様子から、伝えたいことの内容が明らかになるように構成を考えて文章を書くことには課題がある。</li> <li>「話すこと・聞くこと」領域と漢字の書き取りについては、第1・2学年の頃から課題として挙がっており、傾向は変わっていない。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度授業改善推進プランでは、「①文字や文章を正しく読んだり、書いたりする」、「②相手に伝えるように話したり、聞きたいことを落とさないように聞いたりする」の2点が課題として記載されている。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、日直のスピーチに対して、全員が質問や感想を伝える取り組みを行っている。</li> <li>国語科に限らず、自分の考えを説明する機会を多く取り入れ、それに対して全員が質問や感想を伝える取組を行っている。</li> <li>漢字の書き取りについては、毎日小テストを行って定着を図っている。学期末にはまとめのテストを行い、全問正解するまで再テストを行っている。また、普段から既習の漢字を使うように指導している。</li> <li>文章を書いたりスピーチをしたりする際には、構成メモから文章を組み立てて書いたり話したりするように指導している。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①毎朝の日直のスピーチに対し、全員が質問や感想を伝える時間を設定する。</li> <li>②毎日漢字の小テスト(2～3問)を行い、間違えた漢字を練習させ、定着を図る。</li> <li>③文章を書いたりスピーチをしたりする際に、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①話し手の話に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。</li> <li>②学期に2回、漢字のまとめテストを行い、全員が90点以上取れているか確認する。</li> <li>③話の中心が明確になっているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章やスピーチの内容を確認する。</li> </ol> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①毎朝の日直のスピーチに対し、全員が質問や感想を伝える時間を設定する。</li> <li>②毎日漢字の小テスト(2～3問)を行い、間違えた漢字を練習させ、定着を図る。</li> <li>③文章を書いたりスピーチをしたりする際に、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。</li> </ol>	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①話し手の話に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。</li> <li>②学期に2回、漢字のまとめテストを行い、全員が90点以上取れているか確認する。</li> <li>③話の中心が明確になっているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章やスピーチの内容を確認する。</li> </ol>
<p>＜方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①毎朝の日直のスピーチに対し、全員が質問や感想を伝える時間を設定する。</li> <li>②毎日漢字の小テスト(2～3問)を行い、間違えた漢字を練習させ、定着を図る。</li> <li>③文章を書いたりスピーチをしたりする際に、構成メモを書かせ、文章を組み立てることを指導する。</li> </ol>	<p>＜検証方法＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①話し手の話に合った質問や感想が言えているか、毎回その場で確認する。</li> <li>②学期に2回、漢字のまとめテストを行い、全員が90点以上取れているか確認する。</li> <li>③話の中心が明確になっているか、また、筋道立てて自分の考えをまとめることができているかについて、文章やスピーチの内容を確認する。</li> </ol>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>質問や感想を考えながら聞く習慣がつき、話題に沿って発言できるようになった。</li> <li>漢字のまとめテストでは、再テストを含めて全員が90点以上を取ることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人差が大きいですが、構成メモを詳しくして文章を書いたり、誤字脱字や文のねじれを自分自身で見付けたりすることが難しい児童が多い。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人の理解度に合わせた支援を行い、自分の経験や考えを分かりやすく相手に伝えたり、伝えたいことの内容を明確にして詳しく書いたりすることができるようにする。</li> <li>文章を見直しながら書く習慣を身に付け、自分自身で誤字脱字や文のねじれに気付いて直せるようにする。</li> <li>問われていることに正対し、的確に答えられる力を高める。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>問われていることを理解し、自分の思いや考えを的確に表現することができる児童。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和5年度の学力調査において、第3学年社会科の調査は実施していない。</li><li>・写真や地図などを読み取り、課題を見いだすことに課題がある。</li><li>・身近な地域の学習に関して、地理的に学ぶことが難しいテーマが存在する。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当項目なし。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・写真や地図から課題を見いだすことができるよう、複数の資料を比較する活動を多く取り入れている。</li><li>・地理的に学ぶことが難しいテーマについては、オンラインでの資料を用意している。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①比較検討しやすい複数の資料を用意し、資料から課題を見いだすことができるようにする。</p> <p>②オンラインを活用した資料を用意し、地域的に難しいテーマの学習内容でも理解が確実にできるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①年間をとおして、テストの「資料の活用」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。</p> <p>②年間をとおして、「店ではたらく人」「火事からくらしを守る」などのテストの「知識・理解」の項目においてB基準以上を達成しているかを確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「資料の活用」の項目において、どの児童もB基準以上を達成することができた。</li><li>・オンライン資料を活用し、様々な地域の産業に触れ、比較しながら学習を進めることができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「知識・理解」の項目の定着に課題が残った。</li></ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・設定したそれぞれの学習課題に対し、学習のまとめを十分に行い、「知識・理解」の定着を確実にする。</li><li>・ペーパーテストなどで、身に付いた「知識・理解」を的確に表現できるようにする。</li></ul>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>資料を活用しながら情報を適切に調べ、まとめることができる児童。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 算数科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和5年5月実施の学力調査では、文章問題（求小の場面）で、正答が4人中1人だった。文章問題の場面を正しく読み取り、立式することに課題がある。</li><li>長方形の色紙を敷き詰めて正方形を作る場面で、作った四角形が正方形になる理由を記述する問題の正答が4人中1人だった。筋道を立てて考えること、そして考えたことを言葉や数や式を使って説明することに課題がある。</li></ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和3年度では、「文章から題意を読み取り、立式する」という課題が挙げられており、「文章の場면을絵や図で表し、具体的なイメージをもてるようにする」という改善策が示されている。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>問題の場면을、できるだけ具体物や絵、図、写真等を用いて視覚的に示している。</li><li>問題文で「何が問われているか」が分かる箇所にアンダーライン等の目印を付けさせている。</li><li>自分の考えを言葉や数、式を使って書き表し、それを提示しながら説明する機会を設けている。</li></ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①問題の場면을視覚的に示したり、具体物を操作したりする。</li><li>②自分の考えを言葉や数、式を使って説明する機会を設定する。</li></ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①授業中や家庭学習、単元テストの文章問題において、正しく立式できているかを見取る。</li><li>②授業中、自分の考えを説明する場面で、筋道立てて説明できているかを見取る。</li></ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>どのような場面で加減乗除がそれぞれ使われるのか理解することができた。</li><li>自分の考えを自分の得意な方法（言葉や式、図など）を使って説明する力が高まった。</li></ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>未知の問題に対し、問われていることを理解することに課題がある。</li><li>問題場면을図に表して考えることが苦手な児童が多い。</li></ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>図などを活用する力を伸ばすことで、問われていることを的確に理解したり、必要な情報を整理したりすることができるようにする。</li></ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>未知の問題に対しても問われていることを理解し、図などを活用しながら解こうとする児童。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度から理科の学習を始めたばかりなので、科学的思考がまだ身に付いていない。</li><li>・観察や実験に対しての興味・関心は高いが、理由や根拠を探ろうとする意識が低い。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・該当項目なし。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「学習のめあて」や「問題」、「予想」や「結果」、「まとめ」を明確にすることで、一連の科学的思考の流れを身に付ける。</li><li>・「なぜ」「どうして」そうなるのか、常に問いかけることで、理由や根拠を探ろうとする意識を高める。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①毎回の授業の中で、「学習のめあて」や「問題」、「予想」や「結果」、「まとめ」を明確にすることで、一連の科学的思考の流れを身に付ける。</p> <p>②授業の中で、「なぜ」「どうして」そうなるのか、常に問いかけることで、理由や根拠を探ろうとする意識を高める。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①3学期末までに、一連の科学的思考の流れを身に付けられたか。</p> <p>②3学期末までに、理由や根拠を探ろうとする意識を高められたか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「学習のめあて」や「問題」、「予想」や「結果」、「まとめ」を明確にすることで、一連の科学的思考の流れを身に付けることができた点は成果である。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「なぜ」「どうして」そうなるのかを問いかけ続けたが、理由や根拠を自分自身で探究する姿勢を十分に高めることができなかった点が課題である。</li></ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「予想」については自分の考えを自分の言葉で表現することができるようになったので、「結果」に対する考察も自分の言葉で表現できるように支援を継続する。</li></ul>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「なぜ」「どうして」そうなるのか、理由や根拠を探ろうとする意識を自ら高める児童。</li></ul>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 音楽科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>令和5年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童はA100%となっており、音楽への関心が高い。しかし、「学習したことをわかっている」という項目についてはA50%、B50%となっている。前年度のアンケートは「授業が好き」「学習したことをわかっている」についてはA100%となっている。様々な楽器に興味をもち、授業が始まるまでに「この楽器を鳴らしてもいいですか」など積極的に音楽と関わろうとする姿勢が見られる。ただ、音楽的な知識を用いて楽器を演奏することが難しい部分もあるため、興味・関心を引き付けつつ、音楽的な知識・技能を養っていく必要がある。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「楽しく音楽に関わり、音楽表現を楽しむために必要な基礎的な技能を身に付ける」ことが課題であったが、リズム遊びで交流する場面を多く設定し、音楽を楽しみながら学習に臨むことができた。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の常時活動で様々な楽器や歌唱の仕方を実践し、音楽の面白さを体感できるようにしている。</li> <li>・器楽は積極的に取り組める児童と消極的な児童と二極化してしまうことがあるので、苦手意識をもつことがないように、できていることを大いに褒め、発表する場を設け、「できる」ことを体感させていく。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①器楽の単元に関しては、間隔が空いてしまうと忘れてしまうこともあるため、なるべく多く復習できるように、歌唱単元でも歌唱パート・器楽パートのセクションを設定する。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①実技発表の分析。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズを細分化し、何度も繰り返し練習を実施した。</li> <li>・「今、80点。この部分ができたら合格になるよ。」など、全て完璧でなくても、具体的にこれができるばいいということを提示した結果、ゴールを目指して頑張れるようになった。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽がリコーダーに集中したため、鍵盤系の楽器になじんでいない。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽はリコーダーだけではなく、そのほかの楽器もバランスよく体験できるよう配慮する。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>歌唱も器楽もバランスよく積極的に活動できる児童。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 図画工作科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度1学期アンケートでは、「図画工作の授業が好きか」という項目に関して、4名中4名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関して、4名中4名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえる。学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため、改善を図る必要がある。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【課題】自己の表現したいものを様々な方法で表現する。</li> <li>【改善策】多様な表現を引き出すための用具を充実させ、安全かつ円滑に作業が行える場を設定する。具体的な表現方法をたくさん例示したり、それらの具体物を間近で見たり、触れたりできるようにする。</li> <li>【評価】用具の基本的な扱いを学び、新たに吸収した知識と技能で表現できることを探しながら活動を楽しむことができている。継続して様々な用具や技法について安全かつ円滑に実践できるよう支援をしている。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵や立体に表す活動をすぐ始めたいという雰囲気があっても、導入を丁寧に行い、用具の扱い方や技法の種類などを丁寧に説明しながら一緒に実践するようにしている。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②授業デザインの、学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②授業デザインの、学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</li> </ul>
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②授業デザインの、学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</li> </ul>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校教員が専科教員として行う図画工作科の授業が初めての学年で、導入から実践、振り返りまでのルーティンを1年間かけて定着させることができた。用具や材料の特性や扱い方等、注意が必要な内容に関して、指示をよく聞きルールを守って取り組むことができたため、発達段階に応じて与えられた条件の中で、徐々に表現したいことを実現できるようになり、創造的な作品づくりや鑑賞活動につなげることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月に赴任したばかりの中学校教員は小学校の指導経験がないため、4月の授業開始と同時並行で指導教諭もない状況で児童の実態を確実に把握し、授業準備や教材研究をするのは容易ではないこと、予算を含む地域の特殊事情も踏まえると経験でカバーできない要素が多く、サポート体制がないことが課題。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が表現や鑑賞の活動に取り組む中で、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培っていくためには、児童の実態に応じた弾力的な学習を展開していく必要がある。発達の特性に応じた題材を常に検討しながら、他教科の教員や学年担任とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。</li> <li>授業における楽しさをはき違えないような規律づくりが必要であり、児童の実態に応じて学年担任との情報共有を密にしながら、けがや事故防止に努め、安全第一で授業を行う。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>用具や材料の扱いを正しく理解し、身に付けたことを活用して表現したいことを形にできる児童。</p>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 体育科〉

<b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好きか」や「体育科の授業は分かりやすいか」という項目に関して、全ての児童が肯定的な回答をしている。</li><li>令和5年度6月実施の体力テストにおいては、高い記録を示している児童がいる一方で、「ソフトボール投げ」等で記録が伸びていない児童もいた。このことから、児童によって身に付いている技能に開きがあることが分かった。</li></ul>	
<b>2. 課題改善に向けた取組状況</b> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和3年度では、「技能のポイントを自分なりに見付けようとする」や「楽しく運動に関わり、活動に意欲をもつ」という課題が挙げられていた。改善策には、「良かった点をすぐに伝え、称賛する。また、友達の手本を見ながら、技能のポイントを共有する場面を設ける」こと、「ゲーム的な要素を取り入れた運動遊びを多く設定する」ことが示されている。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>分かりやすい技能のポイントを複数用意し、自分に合ったものを選択できるようにする。</li><li>ICT機器を活用し、児童が自分自身の動きを視覚的に確認して改善につなげることができるようにする。</li><li>児童がお互いによかったところを伝え合える場を設定する。</li></ul>	
<b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①技能のポイントをわかりやすく提示する。</li><li>②タブレット端末で自分の動きを確認させる。</li><li>③児童同士がよかったところを伝え合ったり助言し合ったりする場を設定する。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①毎回の学習カードから見取る。</li><li>②毎回の学習カードから見取る。</li><li>③毎回の学習カードから見取る。</li></ul>
<b>4. 検証結果(成果と課題)</b> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>技能のポイントを示したことで、目的意識をもって授業に取り組むことができた。</li><li>自分の動きを動画で確認することで、課題意識をもって授業に取り組むことができた。</li><li>児童同士が助言し合うことで、意欲的に活動に取り組むことができた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>単元内容によって、児童の意欲や苦手意識に差が見られた。</li></ul>	<b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b> <ul style="list-style-type: none"><li>どの児童も学習に意欲的に取り組むことができるよう、運動の特性を踏まえたスモールステップの練習時間を設定したりルールを工夫したりする。</li></ul>
<b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b> <p>学習に意欲的に取り組み、技能・表現の力を着実に身に付けていくことができる児童。</p>	